



岩手大学人文社会科学部 学部案内

■人文社会科学部の歩み

人文社会科学部は、1966年（昭和41年）に設置された教養部を1977年（昭和52年）に発展的に改組して創設された総合学部です。この学部創設は、従来岩手大学に欠けていた文系学部の設置を望む地域社会の要望に応えるものでもありました。学部創設以来、自然科学との密接な連携のもとに、従来の文学部、経済学部、法学部といった区分を超えて、人文科学・社会科学の総合的な教育研究を行ってきました。

総合系学部として「専門深化」と「総合化」をより充実させ、グローバル化時代の地域社会の課題に即ち向き合うため、2016年（平成28年）に人間文化課程および地域政策課程からなる2課程14専修プログラム体制へ改編し、引き続き教育研究のさらなる改善に努めています。

■学部の教育目的

人文社会科学部は、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とします。

■課程の教育目的と特色

人間文化課程

地域社会の人々の心身と文化の問題に取り組めます

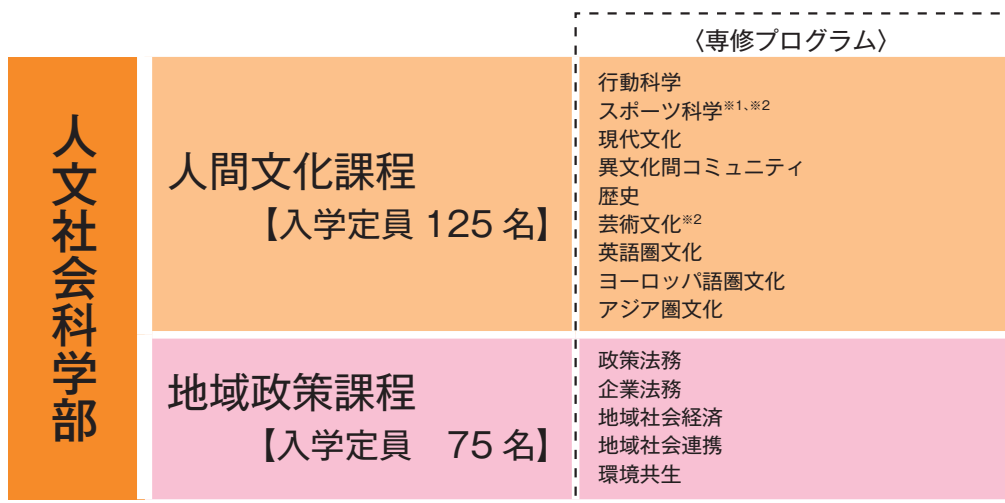
- 文化研究（欧米・アジア等の言語、文化、歴史、思想）、行動科学、スポーツ科学、芸術の各分野を踏まえた上で、総合化を図ります。
- 学部共通科目として「総合科学基礎（人間文化）A・B」を配置し、その中で地域が直面する問題について総合的に学修させます。「国際交流研修」等の課程共通科目では、国際交流体験・留学等を行います。
- 1年次での基礎科目の履修、2年次以降の実践的な演習（または実験・実習）を中心としたアクティブ・ラーニング科目の履修などを通じて、グローバル化に対応した地域づくりや地域社会の発展・向上に資する社会的実践力を育成します。

地域政策課程

震災復興から持続可能な社会づくりに取り組めます

- 地域創生の課題に総合的かつグローバルな視点から取り組める人材を養成するために、法学・経済学・環境学の高度な総合化を図ります。
- 学部共通科目の「総合科学基礎（地域政策）A・B」と課程共通科目において、地域課題との関連性のなかで法学・経済学・環境学の基礎理論を共通に学修させる一方で、5つの専修プログラムを配置することにより、自らの問題意識にもとづいて地域課題に取り組む能力を養います。
- 各専修プログラムにはPBL科目※を置き、具体的な解決手法の修得強化を図ります。

※ PBL科目＝課題解決型学習科目



※1 令和6年度入学生及び令和8年度編入学生からスポーツ科学専修プログラムの受け入れを停止します。ただし、スポーツ科学に関連する科目は継続して開講します。

※2 人文社会科学部では、保健体育・美術・音楽・書道の教員免許は取得できません。

■取得可能な資格

●教育職員免許状

所属課程により、取得できる教員免許の種類が異なります。

《人間文化課程》 中学校：国語、社会、英語 高等学校：国語、地理歴史、公民、英語

《地域政策課程》 高等学校：公民

●学芸員資格 ●日本語教員 ●社会調査士 ●認定心理士 ●公認心理師※ ●公認スポーツ指導者 ●環境再生医 初級

●自然再生士補

一部の資格には、課外科目（卒業に必要な単位に算入できない科目）の単位修得が必要なものもあります。

これらの資格以外にも、学部で専門に学んだことが、さまざまな資格取得に結びつく可能性は十分あります。実際に国家資格などを取得している学生も少なくありません。ただし、学部での教育は資格取得だけを目指すものではないことも理解してください。

※学部を卒業しただけでは資格を取得することはできません。公認心理師の資格取得に関する詳細は、厚生労働省のホームページをご確認ください。

教育課程

人間文化課程・地域政策課程の2課程制

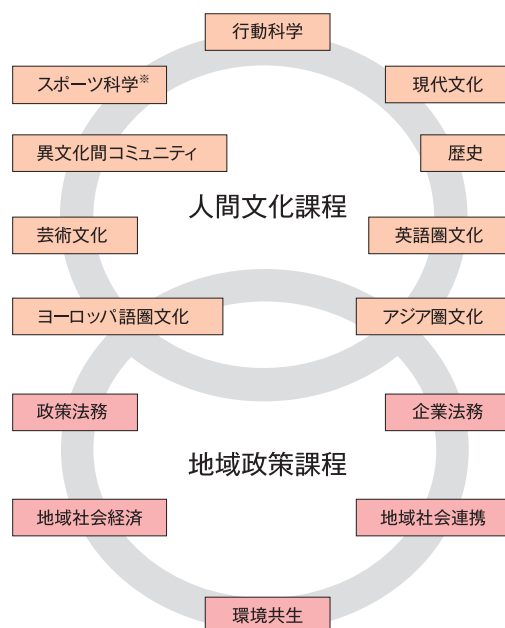
震災復興に加え人口減・グローバル化の課題に直面する地域社会にあって、その来歴・現状を深く理解し、地域創生に向けグローバルな視野をもって貢献できる人材の養成を目的として人間文化課程・地域政策課程を設置しました。

主副専修プログラム制による総合化

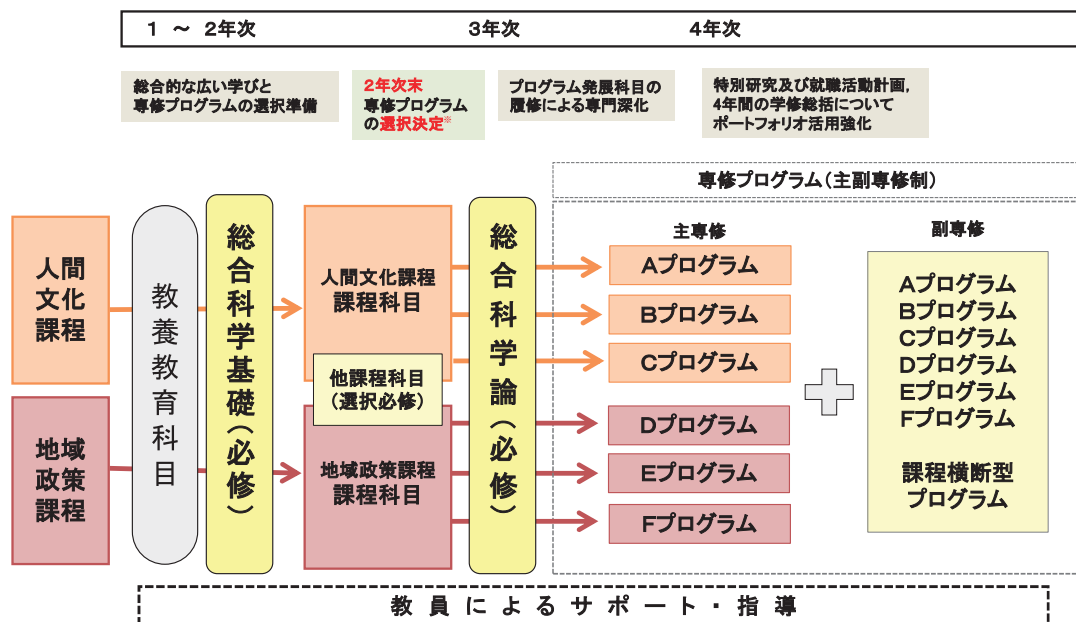
従来の「課程－コース制」及び「コースカリキュラムに基づく主副専攻制」を廃止し、「課程－専修プログラム制」を新設しました。主副専修制により専門的学びと総合的学びを確保しました。

学修ポートフォリオによる自覚的・主体的学修の強化

在学全期間にわたるポートフォリオの活用により、学生の自覚的・主体的学修を促し、個別指導を徹底します。主副専修プログラム制の総合的学修をサポートします。



学びのイメージ



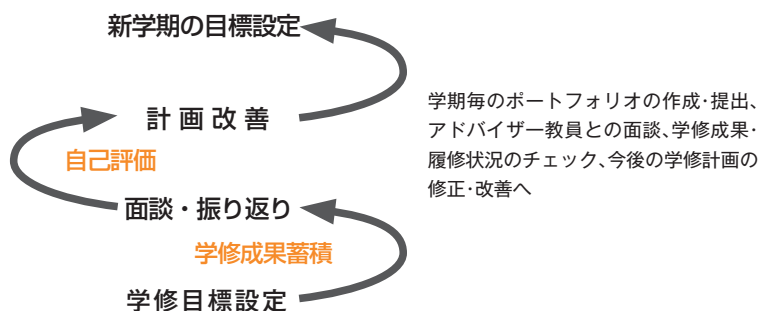
学生は主専修プログラムを1つ(所属課程のもの)、副専修プログラム(主専修で選択したものを除き、課程横断型プログラムを含む)を1つ選択して学修を進めます。

※令和6年度入学生及び令和8年度編入学生からスポーツ科学専修プログラムの受け入れを停止します。
ただし、スポーツ科学に関連する科目は継続して開講します。

学修ポートフォリオを活用し、主副専修プログラム制による学生の主体的学びをサポート

主専修プログラムに「近い分野」あるいは「遠い分野」の専修プログラムを副専修プログラムとして履修することで、多様な学修成果、能力を培うことが可能です。

- 総合的学びと専門的学びの計画・実行・反省(自己評価)履修申告チェック
- 授業外の活動・就職活動の計画・実施・反省
- 学修成果(レポート・ゼミ報告等)の添付・蓄積
- アドバイザー教員(担任教員・指導教員等)との面談:履修状況の相互理解を図ります。



人間文化課程の専修プログラム一覧

行動科学専修プログラム	〈キーワード〉 人間行動 心理システム 社会システム
〈養成人材像〉 心理学・社会学・情報科学による行動科学的アプローチに基づき、人間行動を総合的に理解し、地域住民の心身の問題、生きがいの問題などに適切に対処できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ● 周辺環境が防犯性能評価と犯罪不安に与える影響 ● 思春期の子どもの変化に伴う家族の発達プロセス ● 被災地における地域と来訪者との関係性構築 ● クローン技術の是非についての考察ークローン人間と治療的クローンー	
スポーツ科学専修プログラム	〈キーワード〉 スポーツ社会学 コーチング論 スポーツ心理学 指導法 メンタルトレーニング
〈養成人材像〉 行動科学的な側面からスポーツを学修し、スポーツを通じた地域づくり、並びに心身の健康づくりの指導者となる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ● スポーツマーケティングにおける広告・PR の効果 ● 熟練度の異なる Locking ダンサーの運動のばらつき：即時フィードバックに着目して ● 強度の異なる健康づくり運動の心理・生理的効果の検討	
※ 令和6年度入学生及び令和8年度編入学生からスポーツ科学専修プログラムの受け入れを停止します。ただし、スポーツ科学に関連する科目は継続して開講します。	
現代文化専修プログラム	〈キーワード〉 現代 文化 表象 芸術 音楽 メディア 記号 デザイン 文学 思想
〈養成人材像〉 文化現象の生成・発展・変容を捉える学修をもとに、地域の課題に文化的側面から貢献できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ● 若者の消費文化について ● サブカルチャー批評とバーチャル YouTuber ● 口コミ型グルメサイトの課題と今後の可能性 ● グローバル化とストリート・カルチャー ● 創作物における方言の使用 ● 『ちびくろサンボ』問題の再考	
異文化間コミュニティ専修プログラム	〈キーワード〉 ジェンダー エスニシティ コミュニケーション
〈養成人材像〉 性別、国籍、言語・民族性などの違いからマイノリティ（少数者）が生み出されるしくみ、社会的排除の現状と背景、当事者へのエンパワメント・スキルを学び、諸課題を克服し地域創生に貢献できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ● 現代カナダの先住居留地社会が先住民女性の生き方に与える影響についての検討 ● 金原ひとみ作品における異性愛秩序とミソジニー：自己破壊と諦めをキーワードに ● Jホラー映画からみる 1990 年代―「心の闇」とサイコ・ホラー ● 沖縄表象のうちとそこ ● 「親しい友人」とは：日本とニュージーランドでの比較 ● 異文化ミスコミュニケーション：ロシア、台湾、北米などでの自己体験を踏まえ	
歴史専修プログラム	〈キーワード〉 日本史 西洋史 アジア史 日本思想史
〈養成人材像〉 日本・アジア・欧米の過去を横断的に学び、現代の諸問題の歴史的背景を理解したうえで、国際的視野と比較・対象の視点から、流動的な現代社会において活躍できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ● 日本古代の女性と婚姻 ● 明王朝建文帝・永楽帝の政権人員についての比較考察 ● 18 世紀プロイセン軍の徴兵と兵士の生活 ● アジア・太平洋戦争期における日本兵の死生観	

芸術文化専修プログラム	〈キーワード〉 書道 デザイン 視覚文化 工芸 絵画 彫塑 芸術思想史 美術史 染織 窯芸 版画
〈養成人材像〉 造形を中心に芸術文化の実践的な教育研究を行い、地域における文化の活性化、および地域からの文化発信に貢献できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●久慈琥珀におけるリファインドアンバーを用いた新たなデザイン ●「夢と現実の繋がり」をテーマとしたアニメーションの制作研究 ●石膏鑄型による蠟原型の鑄造を主体とし、人体をモチーフにした制作研究 ●木簡を基調とした漢字作品制作研究と「寸松庵色紙」の散らし書きの手法を取り入れた仮名作品制作研究 ●余白と描写の均衡を主題に、生物を用いたアクリル絵の具による絵画制作の研究	

英語圏文化専修プログラム	〈キーワード〉 英語圏文学 英語圏文化 英語学 言語習得論 英語教育論 英語コミュニケーション
〈養成人材像〉 英語圏の言語・文化・文学を総合的に探求し、英語圏文化への理解を深め、グローバル社会に対応できる実践的コミュニケーション能力を有する人材を育成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●アメリカ国立公園と環境保全 ●『ピーターパン』に見られるJ・M・バリの社会観 ●日本人英語学習者に必要なコミュニケーション方略とその指導 ●ガムランに関する文化統合と文化盗用 ●言語景観の観点から見る多言語支援に関する考察	

ヨーロッパ語圏文化専修プログラム	〈キーワード〉 ドイツ フランス ロシア 言語 文学 文化
〈養成人材像〉 ヨーロッパの言語・文化・文学を総合的に理解し、実践的な言語コミュニケーション能力を修得したうえで、地域のグローバル化を牽引できる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●「ペーター・シュレミールの不思議な物語」における影 —影の意味、その喪失と放棄があらわすもの— ●現代ドイツ語における属格の用法とその中心的機能に関する一考察 ●モンテニエ『エセー』に描かれる人間の本質 ～ユグノー戦争を通して～ ●現代フランスにおけるマスツーリズムの影響と課題 ～2000年から2019年を中心に～ ●喜劇としての『桜の園』 ●和歌・俳句のロシア語訳をめぐる考察 —コンスタンチン・パリモントによる「翻訳」を例に—	

アジア圏文化専修プログラム	〈キーワード〉 日本文学 日本思想史 中国思想 中国語学 日本語学 日本語教育
〈養成人材像〉 歴史的に日本・中国と深い関係をもつ東アジア地域について深い理解をもち、多言語・多文化化が進む現代社会に対応できる能力を有する人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●宮沢賢治の括弧を用いた表現について ●日本と中国における神と妖怪の性格の比較 ●中国と日本における「白」色の連想イメージの比較 ●「すべからく」の意味・用法の変化について	

■地域政策課程の専修プログラム一覧

政策法務専修プログラム	〈キーワード〉 政治学 法学 公法学 刑事法学
〈養成人材像〉 震災復興の目標として、法学・経済学・環境学の基礎的知識を踏まえ、公法の観点から法制度・法政策を学修し、持続可能な地域社会の創生を担う人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●自衛権概念と日本国憲法下における自衛権の制限 ●不能犯に関する基礎的考察 ●江戸時代の司法制度について ●不動産登記制度について	
企業法務専修プログラム	〈キーワード〉 会社法 労働法 民法 防災 危機管理 家族 ブラック企業 コンプライアンス 災害関連死
〈養成人材像〉 経済からの地域再生・創生を目指し、経済学・環境学の学修を基礎として、民事系を中心とする法制度・法政策を学修し、まちづくり・ベンチャー企業創設等の制度設計をリードできる人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●離婚後の親権について ●過労死・過労自殺について ●新株予約権と買収防衛 ●親子関係紛争における DNA 鑑定 ●労働時間とワークライフバランス ●災害下の民法的課題	
地域社会経済専修プログラム	〈キーワード〉 経済学 地域経済 財政学 経営学 復興 環境学
〈養成人材像〉 経済学の基礎的学修とともに、地域・地方自治に係る基本的な制度・政策を学ぶことによって、地域経済の創生・再生を担う人材を育成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●派遣労働の現状と課題 ―ディーセント・ワークから考察する規制の在り方― ●過疎問題の今日の実態と内発的発展論のあり方 ●日本における社会的バランス論の今日的意義 ●地域格差の要因分析 ―企業立地と所得移転の構図―	
地域社会連携専修プログラム	〈キーワード〉 経済学 地域社会 産業 法学 環境学
〈養成人材像〉 経済学を基礎として、法学や環境学の視点を取り入れながら地域社会の現場で生じている生産・生活をめぐる諸問題を学修することによって、地域が抱える諸問題を総合的な視点から解決できる人材を育成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●地域銀行におけるリレーションバンキングとコンサルティング業務 ●女性正規雇用労働者の継続的キャリア形成への展望 ●最低賃金制度が抱える諸問題の理論的検討―「労働力の価値」の観点から― ●生産者と消費者との産直による地域農業活性化の取り組み	
環境共生専修プログラム	〈キーワード〉 環境学 持続可能な発展 共生社会 環境政策 環境マネジメント 自然保護 環境分析
〈養成人材像〉 持続可能な共生社会の構築に向けて、地域の創生に貢献する、地域の環境政策や環境マネジメントに関する実践的知識と能力を有する人材を養成する。	
〈卒業論文のタイトル例〉 ●流域・河川環境の有効利用と保全 ―地域振興に向けて― ●マイクロプラスチックが与える影響 ―現状と今後の戦略展開― ●岩手県における農作物の認証制度 ●地域特性の差異を考慮した再生可能エネルギー発電事業の日独比較	

■課程横断型プログラム

人間文化課程、地域政策課程のどちらにも属さない、課程横断型のプログラムです。

どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できますが、このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。

グローバル・地域人材育成プログラム	〈キーワード〉 留学 国際研修 地域課題
〈目的・養成人材像〉 海外の研修等で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし、個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく、社会的・文化的・あるいは環境問題にかかわる地域の諸課題の解決に貢献する能力と意欲を育成する。	
〈科目例〉 日韓学生の協働研修、課題解決型国際研修(英語・ドイツ語・フランス語・中国語)、国際教育科目、交換留学など	

副専修プログラム「グローバル・地域人材育成」を選択した場合、「留学型」または「国際研修型」の要件を満たす必要があります。「留学型」は、交換留学を必須としています。また「国際研修型」においては、短期型の研修を必須としています。



教員の紹介

人間文化課程



教授 浅沼 道成

スポーツ社会学

地域スポーツ振興に関する研究、スポーツ NPO に関する研究、スポーツにおける一貫指導に関する研究



教授 後藤 尚人

文化記号論、文芸理論

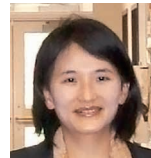
文学テキストの読解理論研究、文化記号論、メディア文化論、高等教育研究



教授 阿部 裕之

金属工芸

伝統的美術工芸（鋳造を中心とする）の基本設計及び造形、鋳造作品の原形制作、鋳造及び仕上げ加工と着色法、ヨーロッパ式石膏鋳造による蠟型美術鋳造の研究



教授 小林 葉子

異文化コミュニケーション論、応用言語学

特に第二言語コミュニケーション学における、異文化コミュニケーション・言語学習への態度



教授 大友 展也

ドイツ言語文化

ドイツ語学、ドイツにおける活字メディアの研究、ホロコースト研究、翻訳論



教授 五味 壮平

情報学、情報デザイン

情報デザイン、ソーシャルデザイン、地域情報化など



教授 奥野 雅子

発達・臨床心理学

発達障害児やその家族への支援に関する研究、専門家を用いるコミュニケーションに関する研究、ジェンダー・センシティブ・コミュニケーションに関する研究



教授 齋藤 伸治

英語学、言語学

生成文法（語彙意味論）や認知意味論の枠組みを用いての、日英語の基本的語彙の意味構造の研究



教授 織田 信男

人格・臨床心理学

パーソナリティ研究、不一致情報の処理機構研究、カウンセリングの効果研究、日記研究



教授 シュヴァムボルン・フランク

ドイツ文学、外国語としてのドイツ語

ヨーロッパ文化、ドイツ文学・演劇学、特に W・G・ゼーバルトおよびトーマス・ベルンハルトの研究



教授 海妻 径子

ジェンダー論

近代日本の父性論、男性性研究、フェミニズム



教授 スマイリ・ジム

英語コミュニケーション

大学の英語教育の理論と実践に関する研究、英語の教材開発研究



教授 北村 一親

言語学

諸言語の文献学的比較研究、諸言語の実験音声学的研究、言語境界における言語接触



教授 高橋 愛

アメリカ文学

ハーマン・メルヴィルを中心とした 19 世紀のアメリカ小説に関する研究



教授 木村 直弘

音楽学、美術芸術学

藝術思想史、西洋音楽史、サウンドスケープ、宮澤賢治研究



教授 田中 隆充

デザイン学、芸術工学、プロダクトデザイン

人にやさしいプロダクトデザインの研究、地域性を意識したパッケージデザインの研究、継ぎ手を用いた玩具のデザイン研究、観光と災害に適応したアプリケーションの研究開発、新規的な商品を開発するための発想支援法の開発



教授 小島 聡子

日本語学

日本語の歴史について（特に、中古和文における動詞の活用及び補助動詞の変遷、また、近代化以降の日本語の状況についてを中心に）



教授 中里まき子

フランス文学

近現代フランスの文学と歴史の研究、フランス革命や世界大戦の証言の研究、日本文学のフランス語翻訳



教授 中村 安宏

日本感性思想史

近世を中心に、日本人の考え・思い・願い・祈り・感性の歴史について、東アジアを視野に入れながら、文献(文学も含む)・石碑・図画などを活用して研究



教授 樋口 知志

日本史

籍帳制度や税制を中心とした律令国家地方支配の研究、列島北部における蝦夷・城柵・仏教寺院や地域間交流の研究、安倍・清原・奥州藤原氏の研究



教授 松林 城弘

言語習得論

言語習得論、英語教育論、機能的構文論の枠組みを用いたことばの習得についての研究



教授 本村 健太

視覚文化、ヴィジュアルデザイン

ヴィジュアルデザイン、映像メディア表現、パウハウスや視覚文化に関する研究、地域の芸術文化に関する活動



教授 横井 雅明

フランス言語文化

現代フランス語文法研究、ギョーム派言語学、話し言葉の研究



准教授 麻田 雅文

アジア史

日露と中露関係、ならびに中国東北(満州)をめぐる国際政治史



准教授 岡部 祐佳

日本文学

日本近世文芸研究(特に、日本近世の書簡体小説およびその史的変遷についての研究、日本近世における書簡文化と文芸の相関性についての研究)



准教授 音喜多信博

人間学(哲学)

現代ドイツ語圏・フランス語圏の哲学的人間学の研究、生命倫理学研究



准教授 小野澤章子

地域社会学

現代日本における地域社会研究、第1次産業からみた地域生活の特質研究、社会調査法を用いた社会的ネットワーク研究



准教授 梶 さやか

西洋史

近代東欧史が専門。貴族や知識人の文化・社会・教育活動や歴史認識をナショナリズムと絡めて研究



准教授 川原 正広

実験・臨床心理学

感情状態の測定法に関する研究、心的イメージを用いた心理的介入法に関する研究、視空間情報処理能力の測定法に関する研究



准教授 川村 和宏

ドイツ文学、外国語としてのドイツ語

現代ドイツ文学、ドイツ語圏の児童文学、特にミヒャエル・エンデ研究、ゲーテの『メルヒェン』、携帯電話やスマートフォン向けドイツ語学習ソフトウェア開発と学習効果分析



准教授 久保田陽子

仮名書道

古筆を基調とする仮名の書・仮名系漢字仮名交じりの書の作品制作研究、パッケージロゴ等の生活を支える書の制作研究、西行・与謝野寛・晶子の筆跡研究



准教授 グラ・アレクサンドル

比較文化、フランス語教育法

読む、聞く、話す、書くの4技能を効果的に養成するフランス語教育法の実践と教材開発。文化人類学(「恐れ」の概念を中心に、極東地域の宗教民族・宗教性や政治性と西欧の比較)



准教授 佐々木 誠

地域支援・臨床心理学

心理学的地域支援に関する研究、心理教育とその効果に関する研究、カウンセリングにおけるナラティブ生成に関する研究



准教授 鋤田 智彦

中国語学

中国語音韻学、特に対音資料を用いた中国近世音研究、周辺言語における漢字音研究



准教授 鈴木 護

社会心理学、犯罪心理学

公共場面での行為選択に関する研究、犯罪・非行の社会心理学的研究



准教授 立花 良

認知心理学

注意と眼球運動の心理物理学的研究、社会性の認知心理学的研究、行動科学における方法論研究、視覚的注意や眼球運動の時空間情報処理プロセス、大規模自然画像やVRを利用した社会的知覚認知、行動科学および神経科学における研究手法の正確性と精度



准教授 二瓶真理子

倫理学

科学技術にかんする哲学・倫理学、社会認識論やフェミニズム認識論などの現代英米系科学哲学・分析哲学



准教授 橋本 学

英語学、社会言語学、言語障害学

理論言語学、及び、言語障害学・社会言語学への応用



准教授 **長谷川弓子** スポーツ心理学

スポーツにおける心理学的問題とパフォーマンスに関する研究、運動学習



准教授 **松下 隆志** ロシア文学

現代を中心とするロシア文学・文化の研究、ロシア文学の翻訳



准教授 **樋口くみ子** 社会学・社会病理学

不登校支援の地域格差に関する研究、日豪の不登校支援の比較研究



准教授 **梁 仁實** エスニック・マイノリティ論、日韓文化交流史

日本の視覚メディアにおける民族問題に関する研究、日韓の文化交流史

地域政策課程



教授 **内田 浩** 刑法

刑法における因果関係論（客観的帰属論）の研究（正犯・共犯を含む）、責任論



教授 **藤本 幸二** 刑事訴訟法、法制史

近代刑事手続の発展史、市民の司法参加が地域にもたらす影響



教授 **杭田 俊之** 理論経済学

市場経済システムの制度的進化と変化についての研究、株式会社金融についての研究、F. A ハイエクとT. ウェブレンの経済理論についての研究



教授 **松岡 勝実** 民法（財産法）

消費者契約の諸問題、消費者市民社会における人間像と正義論、災害法制度の研究、コモンズ論



教授 **齊藤 彰一** 政治経済学

MEGA 研究・リカード研究・J. S ミル研究・日本の格差問題



教授 **丸山 仁** 政治学

環境政治学（グリーン・ポリティクスとスロー・ポリティクス）



教授 **竹原 明秀** 植生科学、景観生態学、自然保護論

植物と環境がつくる空間の生態学的な研究、天然記念物の保存や野生生物の保護についての基礎的な研究、地域の生物多様性の研究



教授 **宮本ともみ** 民法（家族法）

ドイツ婚姻法の研究、主として、婚姻の本質および婚姻住居利用規整の日独比較法的研究



教授 **塚本 善弘** 環境社会学

北上川流域をフィールドとした〈人間－自然〉共生・コモンズに関する社会学的研究、環境 NPO・ボランティア活動促進や「エコ住宅」地域普及策をめぐる研究



教授 **横山 英信** 農業経済論

日本食糧政策史、戦後現段階における日本の食糧・農業政策、地域農業の展開動向



教授 **寺崎 正紀** 環境化学、環境リスク学

地域水圏および生活圏における新たな有機汚染物質の検索とリスク評価に関する研究



准教授 **中島 清隆** 環境政策論

持続可能性に関する環境政策の社会科学分野の学際・総合研究



教授 **深澤 泰弘** 商法

各種保険（損保・生保、傷害保険）契約及び保険募集に関する法律問題、並びに取締役の責任や M&A に関する法律問題における研究



准教授 **西牧 正義** 民法（財産法）

抵当権など担保物権に関する研究、福祉契約と意思能力に関する研究



准教授 朴 香丹 環境経済論

家計部門における環境保全活動の促進が個人の幸福に与える影響及び温室ガスの削減効果・応用計量経済学



准教授 吉村 武洋 財政学、地方財政論

持続可能な地域づくりをめぐる税財政制度・費用負担の研究



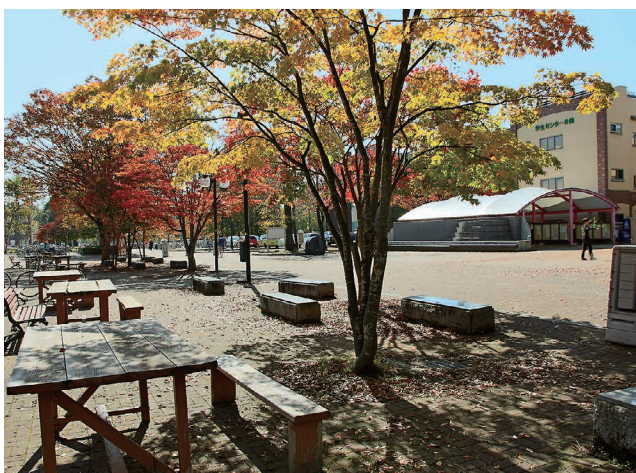
准教授 本庄 未佳 憲法

日本国憲法の憲政史研究、スコットランド地域自治権保障からみる英国立憲主義に関する研究



准教授 渡部あさみ 経営学、人的資源管理論

先進諸国における長時間労働問題と人事労務管理に関する研究



■海外派遣・留学プログラム

◆交換留学

交換留学は岩手大学と協定を締結している協定校との間で行うもので、次のようなメリットがあります。

- 岩手大学で授業料を払えば、留学先の授業料は不要です。
※ただし生活費及び渡航費等の負担が必要です。
- 参加経費の一部について、学内の支援事業に申請できます。
- 留学先で取得した科目の単位は、岩手大学の科目の単位に振替ができます。
※岩手大学の科目に該当する科目を振り替えるため、全ての科目を振り替えられる訳ではありません。
- 休学しないので、単位の取り方を工夫すれば、4年間で卒業することが可能です。

国・地域	場 所	期 間
 ロシア	サンクト・ペテルブルグ 国立文化大学 ※中断中	6 か月～1 年
 フランス	ボルドー・モンテーニュ大学	4 か月～10 か月
 韓国	明知大学校	6 か月～1 年
	群山大学校	
 アイスランド	アイスランド大学	1 年
 アメリカ	テキサス大学オースティン校	1 年
	アーラム大学	
 カナダ	セント・メアリーズ大学	1 年
 中国	寧波大学	6 か月～1 年
	西北大学	
 台湾	高雄師範大学	6 か月～1 年

(2023 年 7 月現在の協定校です。)

※留学期間が「6 か月～1 年」とある場合は、期間を自分で選択できます。(留学先の大学の学期に合わせて 1 学期～複数学期を選びます。)



留学に関する Q&A

Q： 交換留学制度においてアメリカ、カナダの大学へ行くには英語力の条件があると聞きました。どのくらいの成績を取れば、留学が可能なのでしょう？

A： 協定を結んでいる大学（英語圏）に交換留学生として派遣されるには、TOEFL で一定程度の得点を取っていることが求められます。TOEFL-iBT だと 79～80 点です。（TOEIC で換算すると約 730 点程度）
※なお、TOEFL の得点力をアップさせるためのプログラムを用意していますので、留学希望者は、入学後このプログラムで得点をアップする訓練を行なうことができます。

Q： 留学したら留学先の学生寮に住むのですか？

A： 留学先によっても異なりますが、基本的に協定大学への留学については、留学先の学生寮に入ります。

◆課題解決型国際研修（短期型）

下記のプログラムは大学の休業期間に実施している課題解決型国際研修です。
（各種補助の受給も可能です。）

プログラム名	国・地域の例	場 所	期 間	費用負担（実費）
課題解決型 国際研修 （英語）	 マレーシア	国立マラヤ大学	3 週間	約 30 万円
課題解決型 国際研修 （ドイツ語）	 ドイツ	ドレスデン工科大学	2 週間	約 26 万円
課題解決型 国際研修 （フランス語）	 フランス	西部カトリック大学	3 週間	約 30 万円
課題解決型 国際研修 （中国語）	 中国	曲阜師範大学・寧波大学 西北大学	2 週間	約 15 万円
日韓学生の 協働研修 I	 韓国	群山大学校・明知大学校	2 週間	約 15 万円

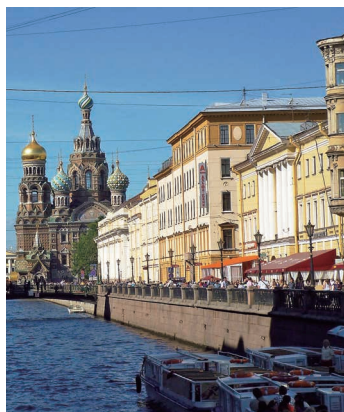
※年度により実施されないプログラムがあります。

また、一部のプログラムは、国内外の情勢により、リアルタイム型のオンライン研修を実施することがあります。

※同時に外国語授業を受けられるプログラムもあります。

※他にも、全学部学生対象として国際研修科目が開講されます。

※費用負担については、経路や燃油価格、国際情勢、為替レートにより変動する可能性があります。



卒業生進路状況

令和4年度卒業生・修了生の進路状況

就職率：就職者数／就職希望者数

人文社会科学部	卒業 者数			決定進路										就職率
				大学院進学	その他	うち 研究生等	うち 各種学校							
								就職	うち 正規雇用	うち 県内就職者	公務員	教員	民間、 その他	
人間文化課程	132	30	102	15	17	0	1	100	99	36	30	1	69	94.3%
地域政策課程	78	43	35	2	4	0	0	72	72	31	35	0	37	98.6%
計	210	73	137	17	21	0	1	172	171	67	65	1	106	96.1%

卒業生の業種別就職状況

	卒業 者数	卒業後の状況						就職者の産業別内訳														就職先		
		進学者			就職		その他	農・林・漁業	鉱業・採石	建設業	製造業	電気・ガス・水道	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産・物品賃貸	学術・研究・専門技術	学校教育・その他教育	医療・福祉	サービス業	公務	岩手県内就職者	県外就職者
		大学院	研究生・聴講生等	その他（各種学校等）	就職希望者	就職者																		
令和４年度	210	17	0	1	179	172	20	0	0	4	11	4	14	1	13	20	1	8	7	2	21	66	75	104
令和３年度	219	15	0	2	184	171	33	2	0	3	9	3	14	6	16	14	1	3	10	6	21	63	85	86
令和２年度	215	5	1	0	202	183	26	0	0	5	10	3	18	9	22	20	3	4	4	4	24	57	81	102
令和元年度	216	17	0	2	186	177	22	0	0	2	14	1	12	8	25	16	1	3	7	4	22	62	66	111

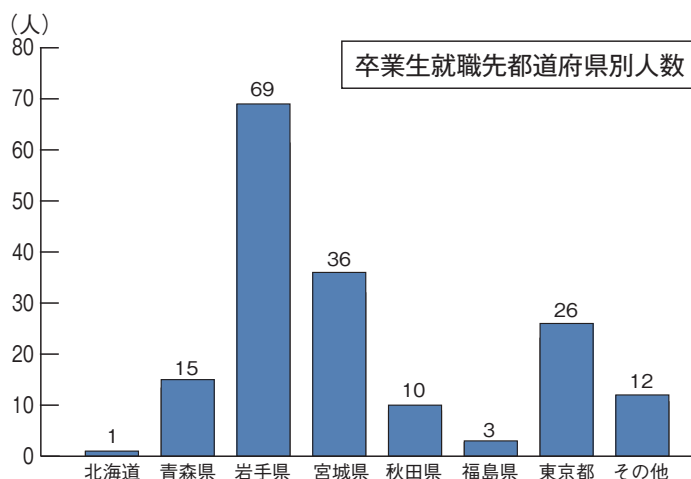
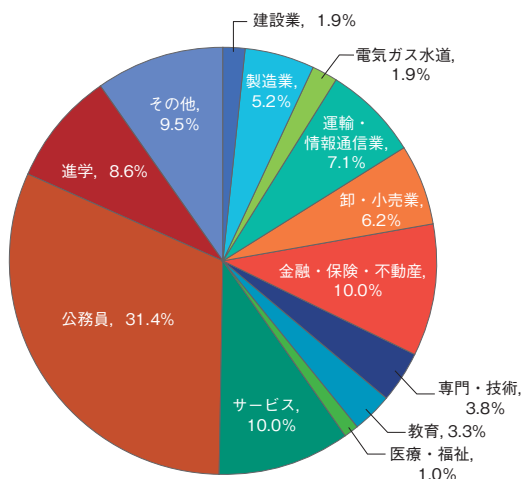
学部卒業生

卒業生数

210名

就職者数

178名



▼過去の進路状況や就職先については岩手大学ホームページの「就職・キャリア」にて公表しています。



■入試について（令和6年度入試についての情報です。）

学校推薦型選抜※¹

■大学入学共通テストは課しません。

■小論文、面接及び出願書類〔出身学校長からの推薦書、調査書、本人の出願理由書〕を総合して判定します。

※詳細は毎年7月に公表する「入学者選抜要項」をご確認ください。大学のホームページでもご覧になれます。

一般選抜（前期日程）※¹

■大学入学共通テスト 800 点、個別学力検査 600 点、合計 1400 点で判定します。

■大学入学共通テストでは、5 教科 6 科目又は 6 教科 6 科目の受験が必要です。

※「国語」（200 点）、「地理歴史」、「公民」から 1 科目又は 2 科目（100 点又は 200 点）、「数学」から 1 科目又は 2 科目（100 点又は 200 点）、「理科」1 科目（100 点）、「外国語」1 科目（200 点：英語の場合はリスニングテストを含む）を利用します。

※「地理歴史」、「公民」、「数学」から計 3 科目（計 300 点）を利用します。

■個別学力検査は、国語、英語の 2 科目です（合計 600 点）。

※一般選抜での大学入学共通テストの利用教科・科目、個別学力検査の詳細は毎年7月に公表する「入学者選抜要項」をご確認ください。大学のホームページでもご覧になれます。

一般選抜（後期日程）※¹

■大学入学共通テスト 500 点、個別学力検査 300 点、合計 800 点で判定します。

■大学入学共通テストでは、3 教科 3 科目の受験が必要です。

※大学入学共通テストは「国語」（200 点）と「外国語」（200 点：英語の場合はリスニングテストを含む）の 2 科目と、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」から 1 科目（100 点）を利用します。

■個別学力検査は、小論文（300 点）です。

※一般選抜での大学入学共通テストの利用教科・科目、個別学力検査の詳細は毎年7月に公表する「入学者選抜要項」をご確認ください。大学のホームページでもご覧になれます。

編入学試験※¹

■3 年次編入学試験を実施します。

募集要項請求の方法は岩手大学ホームページ（<https://www.iwate-u.ac.jp/>）でご確認ください。

大学ホームページからの順序は、「岩手大学」→「受験生の方」→「入試情報」→「資料請求」でご確認ください。

過去問題について※²

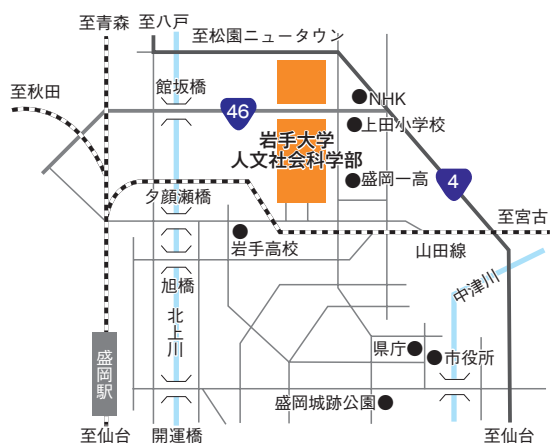
■学校推薦型選抜と編入学試験の過去問題は、ホームページに PDF を掲載又は請求によりコピーを提供しています。請求の方法は、岩手大学ホームページから、「受験生の方」→「入試情報」→「過去問題」をご覧ください。

※¹ 令和6年度入学生及び令和8年度編入学生からスポーツ科学専修プログラムの受け入れを停止します。ただし、スポーツ科学に関連する科目は継続して開講します。

※² 著作権保護の観点から、過去問題を提供できない場合があります。

岩手大学人文社会科学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-34
TEL 019-621-6707・FAX 019-621-6065
<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/>



交通

- 盛岡駅からバスで15分（バスターミナル11番のりば）
駅上田線（307系統）の「松園バスターミナル行き」又は
駅桜台団地線（315系統）の「桜台団地行き」で「岩手大学前」下車
- 盛岡駅からタクシーで約10分
- 盛岡駅から徒歩約20分

